

現代倫理道德研究会（平成 31 年 3 月 6 日）発表要旨

「感謝をめぐる概念について」

廣池千九郎研究室

主任研究員 宮下 和大

心理学における感謝研究の 2 つの論稿〔①鷺巢 奈保子，内藤 俊史，原田 真有「感謝，心理的負債感が対人的志向性および心理的 well-being に与える影響」（『感情心理学研究』24-1，2016）、②池田幸恭「感謝に伴うすまなさ感情の検討」（『和洋女子大学紀要』57，2017）〕を手がかりに、モラルサイエンス及びモラロジーの研究と交差する「感謝をめぐる概念」として「心理的負債感（負債感情）」、「心理的ウェルビーイング（PWB）」、「相互依存」を抽出した。上記の論稿では、感謝に伴う心理的負債感を（1）「すまない」と感じる「心理的負担（すまなさ感情）」と（2）「お返しをしなければならない」という「返報義務感」とに区別した上で、心理的負債感が社会的・文化的な文脈のなかでポジティブな機能を果たす可能性を提示している。とりわけ「返報義務感」はモラロジーにおける「報恩」「義務」「借財」等の概念と重なり合っており、感謝をめぐる現代的課題との重要な接点として再考察する必要がある。